第 77 回 小松市都市計画審議会 < 議 事 録 >

開催日時	令和3年11月17日(水) 8:30 ~ 9:40
開催場所	小松市役所 低層棟3階 議会説明者控室
出席委員	高山純一委員、西正次委員、高見健次郎委員、馬場先恵子委員、高野哲郎委員、宮川吉男委員、平田浩一委員、村西卓委員 西田頼子委員、中村知恵委員、山本玲子委員 (出席委員/11名)
欠席委員	西沢耕一委員 (欠席委員/1名)
事務局	(事務局/10名)

○開会 (事務局)	<p>本日は、委員の皆様方には、お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>コロナ対策のため、アクリル板など、ご不便な点がありますがご了承くださいますようよろしくお願い致します。本日、司会を担当致します、まちデザイン課の出口と申します。よろしくお願い致します。</p> <p>本日の審議会には、委員数12名のうち、11名がご出席です。小松市都市計画審議会条例第6条第1項に基づき、委員の半数以上のご出席がありますので本日の審議会は成立していますことをご報告します。</p> <p>それでは、開会にあたりまして、都市創造部長の石田より、一言、ご挨拶を申し上げます。</p>
(部長)	<p>都市創造部長の石田でございます。</p> <p>日頃より、小松市の都市計画行政に対しまして、ご理解とご協力いただきましてありがとうございます。都市計画審議会の委員の任期は令和3年4月1日より、令和6年3月31日までの3年間となっております。委員の皆様には改めてよろしくお願い致します。</p> <p>北陸新幹線の小松開業は残念ながら、当初予定から1年遅延するなど2024年春と言うことでございますが駅周辺では現在建設中の駅西立体駐車場を来年3月にオープンとしており、それに引き続き、2023年春には高架下に予定しております観光交流センターをオープンさせるということで進めております。新幹線が走る2024年春には、公立小松大学の大学院を入居する予定の北陸電力複合ビルも完成するというので順次、計画的に加速度的にまちづくりを進めています。市民の笑顔があふれるまちを目指しまして、様々な角度から地方創世のモデルとなるように先駆的なチャレンジを続けているということでございます。委員の皆様には引き続き、ご指導承りますようよろしくお願い申し上げます。</p> <p>本日ですが本審議会の会長選出のあと、組合施行による土地区画整</p>

	<p>理事業の確実な実施が見込まれる打越地区と向本折地区について、市街化区域への編入、用途地域の設定及び下水道区域の追加について、ご審議をいただくことになっております。</p> <p>詳細につきましては担当者より説明申し上げますので皆様方には慎重なるご審議を承りますようよろしくお願い致します。簡単ではございますが開会のあいさつと致します。どうぞよろしくお願い致します。</p> <p>(事務局) それでは続きまして、前回、令和2年11月9日に開催されました第76回都市計画審議会の結果につきましてご報告いたします。</p> <p>「第76回小松市都市計画審議会付議案件の経過について」をご覧ください。議案第1号、小松都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(小松都市計画区域マスタープラン)の変更、議案第2号、小松都市計画区域区分の変更、議案第3号、小松都市計画用途地域の変更、議案第4号、小松都市計画土地区画整理事業の決定、議案第5号、小松都市計画道路の変更については、ご覧のように令和3年1月26日に決定告示となっております。</p> <p>続きまして、委員の改選につきまして、ご報告致します。議案書の1ページをご覧ください。当審議会の委員につきましては、令和3年4月1日に一斉改選致しております。今回が改選後の初めての審議会となりますので委員の皆様のご紹介を事務局よりさせていただきます。</p>
(委員)	(各委員がご挨拶。)
(事務局)	<p>なお、西沢委員につきましてはご都合により、本日ご欠席となっております。令和6年までの3年間よろしくお願い致します。</p>
○1号議案 (事務局)	<p>それでは審議に入りたいと思います。改選後の初めての審議会のため、会長が不在となっております。議案第1号の会長が選出されるまでの間、引き続き、事務局で進行させていただきます。議案資料3ページをご覧ください。議案第1号、会長及び職務代理者の選出についてです。審議会の会長の選出につきましては、小松市都市計画審議会条例第5条に学識経験のあるものにつき、任命された委員から委員の選挙によってこれを定めるとされております。事前に高山委員より会長への立候補の申出がありましたが他に立候補はございませんでしょうか。</p>
(事務局)	<p>他に申出がないようですので会長につきましては公立小松大学特任教授の高山純一委員にお願いしたいのですが皆様いかがでしょうか。</p>

(委 員)	異議なし
(事務局)	それでは高山委員を会長に選出致します。拍手をもってご承認下さい。それでは高山会長より一言ご挨拶申し上げます。
(会 長)	<p>改めまして、おはようございます。</p> <p>小松市は皆様、ご存じのように昭和の初めに大火があって、その後、まちづくりが行なわれて今に至っていると聞いております。金沢より古い町家はないですが 90 年以上経った古い町家がまだ市内には残っているようです。このような資産もありますし、最近、イオンができて随分、活性化しているというふうに聞いています。平成の合併が行われる前は、小松市は県下第 2 の都市と言われてまして、人口は今は 3 番目かもしれませんがまちの集積を考えると県下第 2 の都市と言ってもいいのかなと私は思っております。</p> <p>先ほど、部長さんのお話にも北陸新幹線が近々敦賀まで延伸するというのでそれに併せて、小松駅周辺のまちづくりも随分進んでいるようでございます。こういう機会をうまく捉えてまちづくりを進めるということは非常に大切なことではないかと思っております。そういう意味からするとこの都市計画審議会に与えられた役割は、非常に重要な役割をたくさん持っております、慎重にご審議をお願いしたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。</p>
(事務局)	ありがとうございます。続きまして、職務代理者について、選出したいと思えます。職務代理者につきましては小松市都市計画審議会条例第 5 条第 3 項に会長があらかじめ指名する委員がその職務を代理すると規定されております。高山会長いかがいたしましょうか。
(会 長)	それでは、西正次委員に職務代理者をお願いしたいと思えます。西委員よろしく申し上げます。
(事務局)	<p>ご指名がありましたので西委員よろしくお願い致します。</p> <p>それではこれからの会議の進行につきましては小松市都市計画審議会運営要領第 1 条第 1 項によりまして会長が議長となることになっておりますので高山会長よろしくお願い致します。</p>
(会 長)	<p>それでは審議会の進行の前に議事録の署名員を指名させていただきます。高野委員と村西委員よろしくお願い致します。</p> <p>それでは事務局より議題の説明をお願いしたいと思えます。</p> <p>議案第 2 号と議案第 3 号は関連しますのであわせて事務局よりご説明をお願いします。</p>

○2号議案
3号議案
(事務局)

まちデザイン課の木下と申します。私の方から議案第2号小松都市計画区域区分の変更について、これは石川県決定になります。議案第3号小松都市計画用途地域の変更について、これは小松市決定になりますがこの2件についてご説明させていただきます。

前のスクリーンの方でご説明させていただきます。

今回、土地区画整理事業により計画的に市街地整備が図られる区域がございます。その区域につきまして、市街化調整区域から市街化区域に変更して、市街化区域を拡大するものであります。

市街化区域の拡大にあたっては必要な最小限のものを拡大するという人口フレームにより、人口を推計してその分を拡大することになっております。これは、前回の第6回定期見直しの方でご説明させていただいております。概ねの人口規模についてですが平成27年を基準年と致しまして、目標年次を令和12年としております。基準年から過去20年間の人口を用いて、将来、10年後の人口を推計しております。

都市計画区域の人口につきましては、102,790人から97,330人に減少が予測されております。市街化区域内の人口については69,258人から70,140人とほぼ横ばいですが少し増加の推計が出ております。この増加する人口を収容できる新たに必要となる面積について、市街化区域に編入するものであり、可住地面積としては28.5haの規模となります。そのうち、今回約26.4haについて、市街化区域への編入を行うものです。

小松市においては少子高齢化、核家族の進展がございまして、世帯数の増加や若者世帯の転入による宅地需要が存在しております。参考となりますが世帯数では平成12年から令和元年までの20年間に1万世帯増加しております。年間に直しますと約500世帯の増加になっております。このような世帯増加がありますので、住宅建築等による開発圧力が続くということでございます。

今回、26.4haの市街化区域編入でございまして住居系の2地区、打越地区、向本折地区を予定しております。市街化区域の全体面積については2,263haから26ha増えまして、2,289haとなります。市街化調整区域の方は、10,496haから26ha減少となりまして、10,469haに変更となります。

続きまして、今回、市街化区域に編入いたします2地区の上位計画の位置づけでございまして。小松都市計画マスタープラン、これは令和元年12月公表しておりますがまちづくりの骨格となる方針を示すものであります。その中に地域別構想というものがございます。こちらの方で打越地区でございまして図面の青いエリアとなります。打越地区については、周辺の住宅見込地として面的整備の熟度に応じて、新たな土地利用を図る区域として位置づけがされています。

続きまして、向本折地区でございます。図面の青いエリアでございます。こちらの方につきましても地域利便施設や周辺の住宅見込地として面的整備の熟度に応じて新たに土地利用を図るものとして位置づけられています。

続きまして、小松市立地適正化計画でございます。これは平成 30 年に策定いたしております。こちらについては、少子化、長寿化の中での持続可能なまちづくりとすることでコンパクトシティープラスネットワークによるまちづくりを行っていくものでございます。小松市では小松駅、栗津駅の 2 地区につきまして、駅周辺に都市機能を集積して、それを含めた周辺に居住を誘導していくことになっております。スクリーンの画面の方は、小松駅周辺の都市機能誘導区域でございます。都市機能誘導区域につきましては、駅から約 1km となりますが図面の赤色のラインの範囲が都市機能誘導区域となります。こちらの方には大学などの教育文化施設や商業・業務施設、公共施設などの都市機能を集積するものであります。今回の編入を予定しております打越地区、向本折地区については、青色のラインの区域となりますが都市機能誘導区域に隣接した区域であり、市街化区域へ編入後には居住誘導区域に含めるにふさわしい適正な地区であると考えております。

次に各地区について、ご説明いたします。赤色の破線の区域が打越地区でございます。青色のラインが都市機能誘導区域となります。黒く網がかかった区域は、土地区画整理事業区域となっております。吉竹北部地区土地区画整理、吉竹第一地区土地区画整理、小松東部第六地区土地区画整理、打越若杉地区土地区画整理、白江南部地区土地区画整理、沖周辺土地区画整理ということで、周辺の市街地につきましては、土地区画整理事業により市街地として整備されてきた地区であります。

打越地区につきましても昭和 50 年の当初設定の時に市街化区域に編入しております。しかし、当時、営農意欲が高かったこともあって、区画整理事業が立ち上がり、昭和 58 年に市街化調整区域へまた戻しております。その時に第一種低層住居専用地域の用途設定を行い、個人の地権者が開発しづらい用途指定を行い、将来の土地区画整理事業に備えてきた地域であります。打越地区につきましては、周辺には市街地が形成されておりました。図面の赤色は商業用地となります。紫色は学校や公共施設、黄色は住居となりますが店舗や医療施設などが立地する生活利便性の高い地域でございます。地区の北側には（都）空港軽海線 4 車線道路が走っています。地区の南側には 2 車線道路の（都）幸八幡線が走っておりまして、国道 8 号バイパスの方に向けて整備を進めているところです。区域西側には（都）沖白江線があり、交通アクセスに優れ、国道 360 号へのアクセスや中心市街地へのアクセス、市外への交通ネットワークが整備された地区であります。

打越地区の事業概要となります。小松市打越地区土地区画整理事業ということで、施工区域は打越町、沖町地内となっております。図面の左側が沖町、右側が打越町となっております。施行面積については、16.27ha、施工年度については、令和3年度から令和9年度を予定しております、工事につきましては、令和4年度から令和6年度の3年間を予定しております。事業費につきましては約17億円、地権者数139名、計画戸数は約310区画を予定しております。

次に向本折地区についてでございます。小松駅から約1kmのところであり、平成30年には公立小松大学末広キャンパスが開学しており、周りには小松市民病院や小松運動公園など公共施設が集積している地域でございます。半径500m、800mの徒歩圏内には、公共施設が集積しておりますし、地域の東側、北側には住居地域が隣接しており、一体的な市街地整備が図られる地区でございます。区域の北側には2車線道路の（都）大和末広線が整備されており、南側にも（都）空港東山線があり、中心市街地や国道305号への交通アクセスが良い地域であります。

向本折地区の事業概要となります。小松市南末広土地区画整理事業ということで、施行区域については、小松市向本折町地内となっております。施行面積については3.82ha、施行年度は令和3年度から令和6年度を予定しております。工事につきましては、令和4年度、令和5年度の2カ年を予定しております。事業費については、4億9千8百万円、地権者数52名、計画戸数は約120区画を予定しております。

以上、打越地区22.1ha、向本折地区4.3haを市街化区域に編入するものであります。

続きまして、用途地域でございます。建築物の混在を防ぐため、建物の用途によって地域を区分しております。用途地域としては13種類ございまして、住居系、商業系、工業系というものがございまして、その中で建ぺい率、容積率を定めております。今回は住居系のうち、表の一番上にあります第一種低層住居専用地域の用途指定を行うものであります。向本折地区につきまして、今回、市街化編入に併せて、現在、用途地域の指定はありませんが第一種低層住居専用地域、容積率60%、建ぺい率40%に指定させていただくものであります。打越地区につきましては先ほど少しご説明させていただきましたが昭和58年に市街化調整区域に戻した時に将来の土地区画整理事業に備えて用途地域を指定済みでございますので、今回は変更なしということとなります。第一種低層住居専用地域に建てられる建築物については主に住宅ということで店舗、事務所の併用住宅までが建てることができる用途となっております。暫定用途地域として、第一種低層住居専用地域を今回、一時的に向本折地区について、指定させていただくものであり、区画整理事業による造成工事着手までの一定の期間、建築

を抑制するため、建ぺい率、容積率を低く抑えるものであります。

今後は土地区画整理事業の進展に併せて、用途地域の見直しを行うことになっております。用途地域の見直しにプラスいたしまして、地区計画の設定も予定しております。地区単位の都市計画としてまちづくりのルールを定めるもので、例えば、敷地面積の最低限度、壁面の位置、高さの最高限度、建物の色などの形態意匠、垣柵など、地域のみなさんでルールを作ってまちなみをきれいにしていきたいと思いますというものでございます。区画整理事業では道路、公園などの基盤整備が行われ、新しいまちづくりが行われますのでそれと併せて地区計画を定めることで美しいまちなみが形成されるということで打越地区及び向本折地区について、用途地域の変更に併せて地区計画の設定を予定しております。区画整理事業において、用途地域の見直し、地区計画の設定を行う時期についてですが、土地区画整理事業の方では、市街化区域に編入されますと区画整理事業の認可を受けて、事業が立ち上がります。組合が設立されますと換地計画ということで地区内の道路や公園、個人の土地の位置が決まってきます。その後、工事着手され、造成工事がはじまりまして、宅地化されたところから建築工事がはじまっていきます。仮換地指定が行われ、道路、公園などの位置が決まりましたら、その後、建築行為までの期間に地区計画、用途地域の変更を予定しております。今回の用途地域変更については、第一種低層住居専用地域のうち、容積率 60%、建ぺい率 40%の小松市で一番低いものになりますが、現在、66 h a あるものについて、向本折地区の 4 h a を追加して、70 h a に変更するものであります。

用途地域全体では 2,293 h a から 2,297 h a に増加となります。

最後に経緯と予定となります。令和 3 年 6 月 20 日、26 日に打越地区説明会、令和 3 年 7 月 8 日に向本折地区説明会を行っております。市街化区域、用途地域の見直し、今後、予定される地区計画などについてご説明させていただいております。また、市街化区域編入後は農地から宅地化されるということで税の方も変更されますのでその辺りのこともご説明させていただいております。令和 3 年 10 月 29 日から 11 月 12 日まで都市計画(案)の縦覧をさせていただいております。2 名の方の閲覧がございましたが意見書の提出はありませんでした。今後の予定ですが今回の都市計画審議会を経まして、県決定となります第 2 号議案の区域区分の見直しにつきましては 12 月下旬の石川県都市計画審議会に諮られる予定となります。用途地域の変更につきましては、石川県協議を進めていくこととなります。直近の情報としまして、石川県より 12 月議会終了後にすみやかに審議会を開催する予定と聞いております。その後、国の協議を経まして、令和 4 年 1 月下旬に決定告示の予定となっております。私からは以上の説明となります。

<p>(会 長)</p>	<p>どうもありがとうございました。只今、説明のありました議案第2号、議案第3号について、何かご意見、ご質問があれば承りたいと思います。いかがでしょうか。</p>
<p>(馬場先委員)</p>	<p>教えていただきたいのですがスライドを見ますと向本折地区の方の西側の道路に接しています部分にハッチがかかっています、調整池となっていますが新たな土地利用の想定はあるのでしょうか。他のところと違った使用予定はあるのでしょうかということが一点と新たに市街化区域になる2地区について、現在の景観計画はどういうふうになっているのか教えていただければと思います。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>まちデザイン課の課長をしています濱井と言います。よろしくお願いたします。向本折地区の調整池の件についてですが調整池につきましては、仮の調整池となっております。理由としては、この下流に向本折地区の流域を含んでいますところに遊水池計画があります。その遊水池計画にこの開発する部分を流し込む計画が現在、進んでいるところでございまして、石川県の審査を受ける中で区画整理の調整池が必要であるとの判断のもと、仮の調整池を計画させていただき、申請させていただいている状況でございます。下にある遊水池計画が同時進行で進んでおりまして、遊水池計画の中でこの水の分も含んで調整していける事業でもありますのでそれと併せながら進めていく区画整理事業となっております。遊水池計画が確定して水が流れるということになりますと調整池の斜線の部分が宅地化されるという区画整理の計画となっております。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>もう一つの景観計画区域についてですが向本折地区につきましては、城南松崎線の道路がございましてこちらの方の景観形成重要地域の中に入っていると思います。打越地区については、こちらについても図面の手持ちがありませんので、詳しいことは確認できませんが国道8号小松バイパスの景観形成重要地域に入るか入らないかの位置にあると思います。</p>
<p>(馬場先委員)</p>	<p>恐らく、現在は市街化調整区域ですから、その対象になっていないと思いますが景観計画の中での近隣の地域と一体的なまちづくりの景観形成というところを併行して進めて行かなければならないのかなということでももちろん予定はしていると思いますが確認をしました。</p> <p>それと遊水池となった場合には、そこは建物が建つ可能性がなくなるということなのですか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>下にある遊水池計画なのですが水田の場所になっておりまして、そ</p>

	<p>の水田につきまして、水を一時貯めるという計画になっております。</p> <p>昨今、田んぼダム、いわゆる田んぼに多目的な機能があるということが言われております。下流部分で向本折地区の雨を貯める計画が進めいるところであります。下流部分は、水田になっており、市街化調整区域ということでありますので、建物が建たない区域になっております。</p>
(馬場先委員)	<p>結構、大きな通りに面していますので、今後、建物が建っていく場合は、今、第一種低層住居専用地域ということですので大きな建物は立たないと思いますが地区計画なり、今後のまちの在り方を検討していただきたいと思います。</p>
(高見委員)	<p>スライド 16 ページでしばらくの間、暫定用途地域ということで、その後、事業の進捗に応じて、用途地域の見直しを行うことになっております。この見直しについても住居系の範囲内での見直しということで考えているのですか。</p>
(事務局)	<p>住居系での見直しを予定しております。それにあわせて地区計画を設定する予定としています。</p>
(宮川委員)	<p>向本折地区の調整池についてですが開発する 1,500 m²以上については、地域に応じた調整池を設けなさいというような条例があると思いますが、先ほど、言われた遊水池の計画となりますと条例との整合性がとれないと思いますがどうなのでしょう。</p>
(事務局)	<p>開発するときに 1,500 m²を超えた場合に調整池を作って欲しいという条例がございます。向本折地区は、3.8 h a の開発になりますので調整池は必要であると考えております。ただし、河川断面が計画通りに施工して、作られていけば、調整池はいらないという基本的なことがありますので、計画どおりのものが下流に出来ていけば、調整する必要がないとの判断になります。遊水池で計画をすべて網羅できるとの判断のもと不要という話で県協議を進めております。向本折地区については、今のところ、遊水池ができれば調整池はいらないということで進めております。</p>
(宮川委員)	<p>開発するということは、田であった場合、そこは自然の調整池です。それを開発するときはきちっとここに設けなさいということで調整池をもって来たと思います。ここに遊水池があるからそれでいいということになりますとこれからの開発に皆、それが出てくると思われます。これでまで条例どおりにやってきたものと違いが出てきて、これはおかしいなということでいろいろなことで問題が出てくるのでは</p>

	<p>ないかと私は思うのですがその辺はどうなのですか。</p>
(事務局)	<p>今まで計画してきた地区については、調整池を作っております。田んぼから開発することになるので雨の降った量が速く、川や水路に流れ込むため、水路があふれたり、水害になったりするという考え方があります。そこで調整池をつくって、一度そこに貯めて、水を絞って、元々ある量にして水路、河川に出すということが調整池の役割だと思っています。今回の向本折地区におきましては、その川の部分が完全に完成した川、いわゆる遊水池になりますので絞る行為はしなくてよいという判断のもと出すような計画としております。直ぐ下流の松寿園の横に遊水池として貯められる30haの田んぼがありまして、そこに流していくという計画で同時並行で進めております。</p>
(宮川委員)	<p>田んぼ自体はもともと調整池であると思っています。もう一つは、水害対策は非常に大事なことであると思っています。小松市は昔から水害が多発しており、苦しい生活を送ってきたと思っています。気候変動のなかで、どこで発生するかわからない可能性があり、私は、水害に対する調整池、その対策が重要であると思います。そういった意味で開発するときにはそれらを念頭に置いて開発することが重要だと思っていますので今後、よろしくお願ひしたいと思っています。</p>
(会 長)	<p>他にいかがでしょうか。他にご意見、ご質問ないでしょうか。</p> <p>ではこれ以上、質問がないようですので議案第2号、議案第3号について、原案通り承認するというところでよろしいでしょうか。異議のある方おられますか。</p>
(会 長)	<p>異議なしということですので原案通り承認したいと思います。どうもありがとうございました。</p>
(会 長)	<p>それでは議案第4号について、事務局より説明をお願いします。</p>
○4号議案 (事務局)	<p>上下水道の能登と言います。それでは議案第4号小松都市計画下水道の変更について、説明させていただきます。小松市の公共下水道事業について、簡単にご説明させていただきます。生活環境の改善と梯川や木場潟といった公共用水域の水質保全を目的と致しまして、梯川左岸を単独公共下水道（中央処理区）として、昭和42年度から、梯川の右岸側になりますが流域関連公共下水道（梯川処理区）として昭和59年度から整備を進めております。それぞれ中央浄化センターと翠ヶ丘浄化センターによって汚水を処理しまして、梯川と日本海の方へ放流しております。整備の現状としまして、中央処理区につきましては、全体計画とは下水道事業のマスタープランとなりますが全体計</p>

画面積として 2,738 h a、このうち計画決定面積として 2,616 h a、事業計画面積、これは一般的に事業認可とよばれるものですが 2,345 h a、現在までの整備面積として 1,776 h a、事業計画面積に対する整備面積の率を表す下水道整備率として 75.7%まで整備が完了しております。梯川処理区については同様に全体計画面積 830 h a、計画決定面積 819 h a、事業計画面積 734 h a、整備は 584 h a まで終わっております。整備率は 79.6%となっております。

続きまして、今回、排水区域に追加する地区について説明させていただきます。今回の排水区域の追加につきましては、議案第 2 号において説明のありました市街化区域の編入に伴う追加となります。ただし、打越地区につきましては、すでに過去に追加されておりますので向本折地区のみの追加となります。また、向本折地区につきましては、市街化編入予定の隣接地に松寿園が立地しておりますので一体的な土地利用を図ることを目的として、この区域についても今回、併せて排水区域に追加する予定としております。

拡大図になります。①番のところは今回市街化編入される区域ですがこの区域の周辺、図面で言うと白くハッチングがかかったところですがこの区域については、すでに下水道整備が完了しております。②番のところは福祉施設があるところですが①番の市街化編入される区域に隣接することになりますのであわせて排水区域に追加すると言うことでそれぞれ 4.3 h a と 1.8 h a の追加ということで合計 6 h a、中央処理区の排水区域の全体としては 2,616 h a から 2,622 h a に増えることとなります。都市計画変更が必要な理由としましては公共下水道の排水区域に隣接しており、経済性および一体的な土地利用の観点から公共下水道として排水整備することが有効であると考えておりまして、排水区域に追加しまして、公共水域の水質保全と居住環境の改善を図るものであります。

経緯と予定としまして、令和 3 年 6 月に関係機関協議としまして、石川県都市計画課生活排水対策室と協議調整を行っております。令和 3 年の 10 月 29 日から令和 3 年 11 月 12 日の 2 週間にわたって計画案の縦覧を行いまして、意見書等の提出はございませんでした。

今後の予定としましては、令和 3 年 11 月下旬に石川県の知事協議を行いまして、令和 4 年の 1 月下旬に 2 号議案に合わせまして都市計画決定の告示を予定しております。以上、小松都市計画下水道変更につきまして説明を終わらせていただきます。

(会 長)

どうもありがとうございました。只今、議案第 4 号について、ご説明いただきました。何かご意見、ご質問があればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。特にございませんか。

(会 長)

では私の方から、当初の計画に比べて、我々の生活自体も少し変化

	<p>していると思われませんが処理水、計画予定水量そのものは計画通りになっているのでしょうか。それとも少し減っているとかそういう状況があれば報告いただきたいのですがいかがでしょうか。</p>
(事務局)	<p>計画処理水につきましては当初下水道事業が始まった昭和 42 年に計画した水量と比べまして、水量のもととなる原単位と言うものがありまして、一人あたりどれくらいの汚水を流すか言う数字がありますが元々は 300 リットル以上の水量を計画しておりましたが現在では 240 リットルまで下がっております。それにあわせて全体の汚水量も減少させて計画を見直している状況であります。</p>
(会 長)	<p>はい、わかりました。他いかがでしょうか。</p>
(会 長)	<p>では、お聞きしますが下水道区域、排水区域にあっても下水道に接続しない家庭があると思いますが各自治体接続率をあげる努力をいろいろとされていると思いますが小松市ではどのような努力をされているのかということと当初の計画で接続率に対してどれくらいの目標をもって事業されているのか二つお尋ねしたいのですが。</p>
(事務局)	<p>まず、接続率については、小松市では 10 年間で 90%の人が接続していただけるようなことで計画を立てております。接続に対しての努力の方ですが合併浄化槽から下水道につないでいただく時に最大 20 万円の補助金を準備しております。合併浄化槽のおうちの方は下水道につなぐことが難しいということがありますので最大 20 万円の補助金を出しております。あとは、町内会にもバックアップしていただいて、組合を作っていたら、接続した率に合わせて町内会の方に補助金を払う制度もあります。</p>
(会 長)	<p>わかりましたありがとうございます。他いかがでしょうか。</p>
(高見委員)	<p>接続率が計画としては 10 年で 90%、下水道整備率が 75%、79%とおっしゃられましたが現在の接続率はわかりますか。</p>
(事務局)	<p>現在の接続率は 85.9%となっております。整備した 75%のうちの 85.9%の人が下水道につないでいることとなります。参考になりますが汚水処理整備率というものがありまして、下水道と合併処理浄化槽、農業集落排水を併せたものですが 91%まで進んでおります。</p>
(会 長)	<p>ほか何かありますか。よろしいですか。 他に意見がないようですので議案第 4 号について、原案どおり承認するということでよろしいでしょうか。</p>

(委 員)	異議なし
(会 長)	<p>それでは原案通り承認することに致します。どうもありがとうございます。</p> <p>以上、4件の議案の審議が終わりましたので本日の会議を終わりたいと思います。ご審議をいただき誠にありがとうございました。また、議事の進行にご協力いただきありがとうございます。それでは進行を事務局にお返ししますのでよろしくお願い致します。</p>
(事務局)	<p>高山会長ありがとうございました。本日、ご審議いただきました案件のうち、第2号議案の小松都市計画区域区分の変更につきましては、県決定となるため、この後、12月下旬に開催を予定されております石川県都市計画審議会に付議された後に決定する運びとなります。</p> <p>本日、長時間にわたり慎重なご審議をいただきましてありがとうございました。これをもちまして第77回小松市都市計画審議会をおわりたいと思います。ありがとうございました。</p>